

一 般 健 康 診 断

受診者数の推移

平成20年度の一般健康診断等の受診団体数は、平成19年度と同数であったが、受診者数は約5千件増加、全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診は、受診団体はやや減少したものの受診者数は微増であった。各検査項目(法定項目)についても、平成15年以降、ほぼ全ての項目で増加傾向が続いている。

有所見率の推移

胸部X線：平成16年以降、「異常なし」の比率は女性の全ての年代で減少傾向が続いている。男性の若年者(～49歳)では平成19年度でやや増加したが、平成20年度は減少に転じた。「年1回定期観察」の比率は、男女全ての年代で増加傾向が続いている一方、「要精密検査」の比率は若年者では横ばいか減少、50歳以上では増加傾向である。

血圧：収縮期血圧、拡張期血圧の平均値は男女とも全年代で平成19年に引き続き低下した。「正常範囲」の比率については男性の全年代と女性の高齢者で微増、それ以外の年代では横ばいであった。収縮期血圧90～99または拡張期血圧140～159の「要経過観察」の比率は女性の30歳代以下を除く男女すべての年代で減少したが、収縮期血圧100～または拡張期血圧160～の「要注意」「要受診」の比率は男性の全年代で横ばいかやや減少、女性40、50代でやや増加、それ以外の年代では横ばいか減少であった。

肥満度、腹囲：肥満度の平均値は平成17年以降、男性では29歳以下、60代以上で減少傾向、その他の年代では横ばい、女性では40歳以上の年代で減少傾向、29歳以下で横ばいであった。肥満度～21の「やせ」の比率は平成15年以降、男性の29歳以下で増加が続いている一方、女性の29歳以下では横ばいで、30歳以上の全年代で増加傾向であった。肥満度31～の「肥満」の比率は男性40～59歳で増加傾向である一方、女性の全年代で横ばいであった。本年度から導入された腹囲計測であるが、男性85cm以上は37.8%、女性90cm以上は9.2%であった。男性では85cm以上が最も多かったのは50歳代で46.3%、女性では90cm以上が最も多かったのは60歳代で11.6%であった。

貧血検査：男女とも「異常なし」の比率は平成19年度と比較し全年代で増加か横ばいとなった。「要二次検査」と「要受診」の比率は男女とも平成16年以降増加傾向にあったが、平成20年度は男性で60歳代を除き特に要受診比率が減少した。「要経過観察」の比率は平成17年以降、男性は横ばいであったが、平成20年度は女性の全年代で減少に転じた。

肝機能：「異常なし」の比率は平成15年以降、男女の全年代で増加傾向である。「要経過観察」の比率は平成17年以降、男女とも全年代で減少傾向、「要二次

検査」の比率は平成15年以降、男性の全年代で減少傾向であったが、30～50代で増加に転じた。女性は全年代でほぼ横ばいであった。「要受診」の比率は男女とも全年代で増加に転じた。

脂質検査：「異常なし」の比率は平成20年は男性で20代が増加、それ以外は減少している。女性は全年代でやや増加傾向である。「要経過観察」の比率は男性の20歳代を除き男女ともすべての年代で減少に転じている。「要二次検査」の比率は男女ともすべての年代で減少か横ばいであった。「要受診」は女性の20歳代を除き、全ての年代で増加傾向である。

聴力検査：「所見なし」の比率は平成17年以降、男性の40歳以上でやや増加傾向、男性39歳以下と女性の全年代で横ばいであったが平成20年度は全て横ばいであった。「所見あり」の比率は男女とも全年代で横ばいであった。「1kHzのみ所見あり」「4kHzのみ所見あり」「1、4kHzとも所見あり」の比率は「所見あり」の比率とほぼ同様に推移している。

心電図検査：「異常なし」の比率は平成17年以降、男性の29歳以下と40歳以上、女性の59歳以下でやや減少傾向、男性30～39歳で横ばいであったが平成20年度は男性30代を除いて増加に転じた。「ほぼ正常」の比率は平成16年度まで男性29歳以下を除いて減少傾向が続いていたが平成17年以降、男女とも20代を除いて増加している。「要経過観察」の比率は平成14年以降、男性の30～39歳を除く男女の全年代で増加傾向が続いていたが、平成19年度は減少に転じ、平成20年度も男女ともほぼ全年代で減少している。「要受診」の比率は平成15年以降男女とも全年代で減少傾向が続いていたが、男性30代、女性50代を除いて増加に転じた。

糖：「異常なし」の比率は男性の30～39歳と男女60歳以上を除いて減少傾向が続く、平成19年度は男女60歳以上で増加に転じたが平成20年度は男性は全体に横ばい、女性は全年代で増加に転じた。「ほぼ正常」の比率は、平成16年度まで男性の全年代で減少が続く、男性は20代を除き平成17年度から、女性は60代を除き平成19年度からやや増加に転じたが、平成20年度は20代を除き増加している。「要経過観察」の比率は平成13年以降、男女とも増加傾向であったが、平成19年度は減少に転じ、平成20年度も引き続き減少している。「要二次検査」の比率は男女とも平成17～18年にかけて現象傾向、平成19年度は女性の39歳以下、50～59歳を除いて増加に転じたが、平成20年度は男性50代、女性20代、60代を除いて減少している。「要受診」の比率は平成15年以降男女とも全年代で減少傾向が続く、平成19年度は女性40～49歳と60歳以上で微増した以外は減少が続いていたが、平成20年度は男性50代、60代、女性60代で増加した。

関係の集計表は107頁に掲載